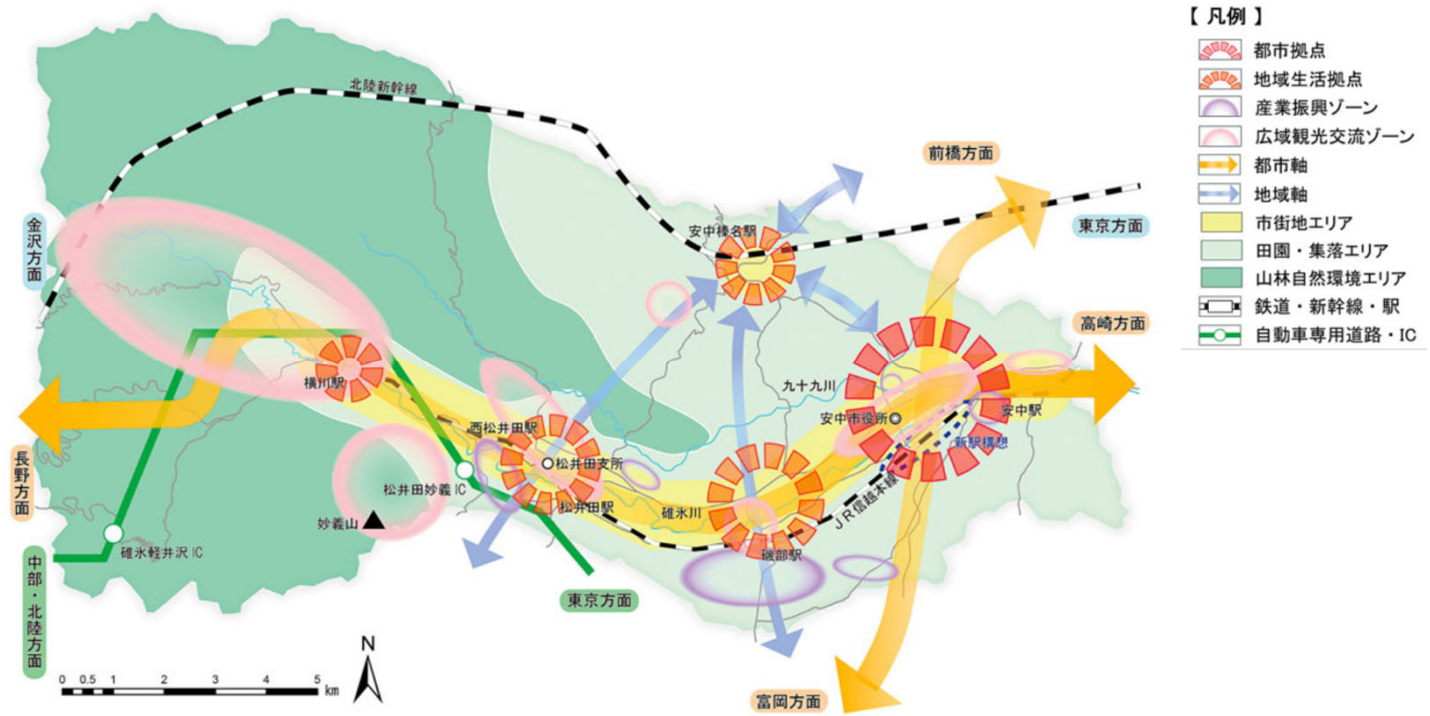


安中市「道の駅」基本計画 空間形成コンセプト・ゾーニング（案）の整理

■上位・関連計画における位置づけ

① 第3次安中市総合計画（あんなか まちづくりビジョン2024、令和6年3月）

- まちの将来像として、「住んで良かった 豊かで魅力ある元気な 新しいあんなか ～さらに、光り輝くまちへ～」を掲げており、この実現のために7つの“まちづくりの基本方針”が挙げられている。
- このうち、道の駅整備に関わる視点として「**経済が活性化し 元気で魅力にあふれるまち（産業、雇用、観光など）**」が位置づけられている。
- 計画対象地は、安中市の将来都市構造において、歴史的な都市の背骨となる「東西幹線軸」に位置するとともに、「広域観光交流ゾーン」として、地域の資源や歴史・文化などを適切に保全しつつ、広域観光を促進するための環境や機能を整えるゾーンに位置している。また、横川駅周辺地区は、交通結節機能を有し、生活サービス機能が集積する、地域生活を支える「地域生活拠点」に位置づけられている。



- また、本計画で一体的に策定されている「安中市デジタル田園都市構想総合戦略」の重点プロジェクトに「知って、行きたくなり、住んでみたくなるあんなかをつくる」ことを掲げており、その施策「地域資源を活かした観光振興」の**主要事業に、道の駅整備事業が位置づけられている。**

② 安中市都市計画マスタープラン（改定中、令和7年6月改定予定）

- 当計画の改定にあたり、新たに追加された課題として、「横川駅に新たに整備する道の駅を最大限に活用した、地域の魅力や観光情報、特産品等の情報発信」「既存観光地の連携強化」「碓部温泉周辺の活性化」「道の駅などによる鉄道沿線の活性化など」が掲げられている。
- 将来都市像（案）として、「つなぎ 紡ぐ 人とまち 魅力あふれる自然と 歴史重ねるまち あんなか」を掲げており、この実現の具体的な目標の1つに「**魅力を高め 多様な人が活動し いきいきと交流するまち**」が位置づけられており、道の駅新設はこの項目に該当する施策の1つに位置づけられている。

③ 安中市「道の駅」基本構想（令和6年3月）

- 基本理念として「**駅がなくなぐ、みちがなくなぐ、碓氷峠交流ステーション**」が掲げられ、道の駅のあるべき姿として以下の点が示されている。

- SLが走る鉄道駅とともに、碓氷峠の鉄道の歴史や文化を味わいながら、交通の昔と今をつなげる道の駅とする。
- 碓氷峠、さらには安中市内の観光資源をつなぎ、あんなかトリップを誘発する観光振興の起点となる道の駅とする。
- 安中市の食の魅力やアウトドアスポーツ、イベントを楽しむ拠点とし、新たな客層を惹きつけ、地域とつなぐ道の駅とする。
- 災害時の国道18号の交通処理や避難など群馬県緊急輸送道路ネットワークの**防災拠点となる**道の駅とする。
- 地域に密着した公共交通により地域をつなぎ、コミュニティを支える道の駅とする。
- 地域の魅力を発信し、地域を元気にする道の駅とする。

■各種調査から見える「道の駅」に対するニーズ・ポテンシャル

① 来訪者インタビュー調査結果（碓氷峠鉄道文化むら、横川SA（上り・下り）、軽井沢・プリンスショッピングプラザにて実施）

- 「今後行ってみたい周辺施設」では、「碓部温泉」がいずれの調査箇所でも上位となり、「霧積温泉」も比較的上位にランクイン。
→鉄道文化むら訪問者は、「碓部温泉」「峠の湯・くつろぎの郷」「アプトの道・廃線ウォーク」「めがね橋等の歴史的遺産」の回答割合が比較的高く、鉄道文化むら周辺エリアの周遊ニーズがあるといえる
- 「道の駅に必要な機能・場所」としては、各箇所とも「休憩施設」「物産販売機能」の回答割合が圧倒的に多い。ほか、軽井沢・プリンスショッピングプラザ、横川SA（上り・下り）では「ペットとのびのび遊び憩える場所」「子どもの遊び場所」も比較的多くなった。
→鉄道文化むらでは、来訪者特性から「子どもの遊び場所」との回答割合が3割強と、他施設とは異なる傾向がみられた
- 「道の駅ができた場合の来訪意向」としては、「年に1～2回程度」との回答割合が最も多く、観光の一環での訪問機会は一定程度見込まれる。一方で、「わからない」との回答割合も比較的多い結果となっており、この道の駅に見込まれる機能・コンテンツ次第で集客力が変わることが示唆される。
- 軽井沢からの誘客に着眼し、「軽井沢のリゾート施設」に行ったことがある方で今後行ってみたい施設としては、「碓部温泉」「霧積温泉」との回答割合が上位であったが、「碓氷峠鉄道文化むら」「おぎのやドライブイン」「めがね橋等の歴史的遺産」「アプトの道・廃線ウォーク」の割合も比較的に見られた。
→今後の訪問先として、温泉地だけでなく鉄道文化むら周辺施設を抱き合わせる等、プログラムの広域的な連携が必要

②地区住民アンケート調査結果（横川・原・坂本・五料の各地区にお住いの756世帯を対象：回答数373世帯）

- 「道の駅ができる場合に必要だと思う機能や場所」として、「物産販売機能」が多く、次いで「休憩機能」「日常の買い物機能」が続く結果となった。また、「防災機能」の回答割合も比較的多かった。
- 「道の駅ができた場合に見込まれる来訪頻度」として、「1週間に1回程度」との回答割合が4割強で最も多く、次いで「1か月に1回程度」が2割弱となった。一方で、「わからない」との回答割合も2割弱であった。
- 「地域との協働」による道の駅の運営・管理の活動への参加意向として、「参加したい」「条件があれば参加したい」との回答割合は7割弱となった。
→ここで参加できる具体的な活動として、「道の駅施設の清掃や美化活動など、日常的な維持管理活動への参加」が最も多く、次いで「地元の農作物・特産品や加工品、地域素材の商品などの物産品の出品」「地域の交流振興が図れる施設の維持管理・運営」が続いた。
- 自由回答では「特産品の充実」「アクセス性・交通状況の改善」「日常的な買い物の利便性」に関する意見が特に多かった。

③ 民間事業者ヒアリング調査結果概要（令和6年9月17日～10月4日に実施）

- 歴史を有する鉄道遺構のPRを企図した、先端技術を活用した観光コンテンツの提供が有効
- 多様な世代が交流し、憩いの場となる空間の創出が有効（既存施設との競合回避（選択肢を生む）が必須）
- 公共交通のハブ空間（観光・地元利用のいずれを重視するかは要精査、初期からの両立は困難である可能性）
- 地域の防災拠点となる空間の創出（日常時・有事ともに利用いただける工夫が必要：日常的な市民への啓蒙教育や意識醸成、地域の魅力を学ぶ場、情報提供を行う場としての活用）
- 「鉄道文化むら」という、既にネームバリューや資産を有する施設を有効活用すべき（留意点として：限られた予算での一体化手法の検討、多様な施設全体をマネジメントできるチーム組成が必要）

観光客によるニーズ

- 休憩施設・物産販売機能といった、一般的な道の駅に備わる機能以外に、ペットと憩える場所、子どもの遊び場所に関するニーズが見られた
- 鉄道文化むらだけに留まらず、周辺施設・エリアへの周遊もできることが求められている

地域住民によるニーズ

- 「物産販売機能」が圧倒的に多く、次いで「日常の買い物機能」「休憩機能」と、日常的な利用が見込める機能を求める声が多い
- 参画可能な活動は「日常的な維持管理活動」が最も多い
- エリアへのアクセス性向上・交通状況改善のためには、適切な周辺道路整備・駐車場の確保が必要

民間事業者が見込むポテンシャル

- 先端技術による観光コンテンツ提供
- 地域の多様な交流・憩いの場の創出
- 公共交通のハブ空間
- 日常時・有事に利用されることによる防災拠点化の促進
- 鉄道文化むらとの一体化は、このエリアのネームバリューを活かした道の駅整備に資する

空間形成コンセプト(素案)：悠久の時を紡ぐ碓氷峠鉄道文化むらと一体となり 地域にも開かれたまちの拠点へ

この地の鉄道の歴史は、明治期にまで遡る。日本唯一のアプト式が導入され、国鉄初の山岳電化が実現した場所である。
さまざまな機関車・鉄道が活躍した“稀有”な履歴は、この地の圧倒的なポテンシャルであり、唯一無二な強みとして後世へと継承すべきものである。
こうした「高付加価値」のある資源に惹かれやってくる観光客と、暮らしながら自分たちのまちを誇りに思う住民らが集まり、
地域に開かれたまちの拠点として、成熟させていくことが重要となる。
以下に、上記のコンセプトを実現するための「重点整備方針」を掲げる。

- 重点整備方針① | 道の駅と鉄道文化むらの一体感の創出**
- この地の圧倒的なポテンシャルである「碓氷峠鉄道文化むら」と一体感のある空間の創出により、道の駅・文化むらの利用者が双方に行き交う流れを創る
 - 鉄道文化むらの現状のゲート前は、道の駅と繋がるゲート空間として設え、新たな「エントランス」として創出する
 - 対象地の東端に駐車した来訪者でも、道の駅施設や鉄道文化むらまで楽しんで向かいとなるような、心地よい移動空間を創出する

- 重点整備方針② | 地域に寄り添う道の駅としての空間構成の配慮**
- 横川駅の眼前にあり、かつ地域の交通拠点に近い場所に、地域連携機能・情報発信機能を集積させ、東側の駐車場・鉄道文化むらの双方から集える空間構成とする
 - 固定的な機能以外に、柔軟なコンテンツの入替が可能な施設も配置する
 - 矢野沢川に近い部分は、自然的な広場を設け、多様な交流やイベントが実施できる空間構成とする
 - 周辺の観光資源との連携が図れる拠点を目指す空間とする

- 重点整備方針③ | 来訪者・運転者が円滑に来訪できる空間の創出**
- 国道18号からのアクセスが容易な、東側のまとまった空間が確保できる箇所に、24時間無料利用できる駐車場とトイレ等の休憩施設を配置する
 - 鉄道文化むらのエントランスに近接する箇所は、鉄道文化むら利用者が利用できる駐車場・トイレ等の休憩施設とする
 - 自家用車や大型車両の入出庫をスムーズに行けるとともに、来訪者やドライバーの安全な往来が可能となるよう、歩行者の東西の通行空間を確保する

